

令和2年度継続課題に係る継続評価書

研究機関 : (株)コトバデザイン、NEC ソリューションイノベータ(株)
研究開発課題 : 高度対話エージェント技術の研究開発・実証
研究開発期間 : 平成 31 ～ 令和 2 年度
代表研究責任者 : 榮藤 稔

■ 総合評価 : 適(適／条件付き適／不適の3段階評価)

(評価点 18 点／ 25 点中)

(総論)

数値目標を適切に定めた上で、ハッカソン、ワークショップ開催によるコミュニティ活動など、目標達成に向けて積極的に取り組んでいることを評価したい。更に、今後の伸びが期待される市場へ活動を広げるなど、アウトカム目標達成を意識した計画も評価できる。

アウトカム目標をさらに高め、「よりそい」型対話技術により、グローバル市場で対話インタフェースを獲得することを期待したい。

(コメント)

- 目標の達成度を評価するための数値目標を適切に定めている。
- 事業化への強い意欲があり、事業ユーザーによる成果利用の推進、今後の伸びが期待される市場への取り組みなど、アウトカム目標達成を意識した計画が評価できる。
- アウトカム目標をさらに高め、「よりそい」型対話技術により、グローバル市場で対話インタフェースを獲得する計画を期待したい。
- OSS 化による一般利用者への公開によるフィードバックやハッカソン、ワークショップなどの開催によるコミュニティ活動など目標達成に向けての積極的な取り組みを評価したい。
- 目標達成に向けて着実に研究開発成果を達成していると評価できる。社会的インパクトの大きな成果が生まれることが期待できる。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況及びアウトカム
目標の達成に向けた取組みの実施状況

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

能動対話シナリオのユーザー許容率や訓練データ作成の省力化など、目標を十分に上回る性能を達成した。更にアウトカム目標達成に向け、OSS化に向けた取組みや利用者を拡大していることも評価できる。

(コメント)

- 昨年度の方式に比較して、人手で作成する訓練データのデータ量を1/3以下にできる見込みを得ている。
- 能動対話シナリオのユーザー許容率の目標である60%を上回る74.5%の評価結果を得ている。
- 研究開発に加えて、多岐にわたるアウトカム目標達成の取組みのすべての当該年度目標を達成見込みである。対話サブエージェントの受容率、自動走行による高齢者向け実証実験用意図解釈モデルでインテント判定などでは、目標を十分に上回る性能を達成した。アウトカム目標達成に向け、製品化・事業化を目的に、運営委員会参加メンバーを超えて8機関に成果を利用が拡大していることも評価できる。
- 3つの研究開発項目共に年度末までに達成することが現在の研究進捗状況から確認できた。
- 十二分に研究開発目標を達成しており、事業化に向けた取組みを着実に進めている。特に、研究成果のOSS化は特筆すべき点と考える。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

(総論)

予算計画に則り、適正に執行していると認められる。

(コメント)

- 予算計画に則り、適正に執行している。
- 当初の予算計画通り使用されていると認められる。
- 物品費、人件費、謝金、旅費など適切に使用できている。

(3) 研究開発実施計画及びアウトカム目標の達成に向けた取組み

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

対話エンジンの OSS 化を本年度3月に予定しており、一般利用者からのフィードバックが得られる状況まで進捗した。更に自動走行における高齢者ユーザー向けの実証実験を行うべく、研究開発項目が有機的に計画されている。

アウトカム目標達成に必要な活動領域設計に一貫性があり、ビジネス展開に向けた様々な取組みが計画されており、様々な分野への展開が期待できる。

(コメント)

- 基本部分のソースコード及びドキュメントを GitHub で公開する予定である。
- アプリケーション開発を競うハッカソンを開催した。
- 自動走行による高齢者ユーザー向け実証実験を行うべく、研究開発項目が有機的に計画されている。アウトカム目標達成に必要な活動領域設計に一貫性があり、具体的な活動が計画されている。ロボティクス関連の自社ビジネスでの応用と有力ビジネス領域であるスマートシティへの取り組みを合わせて検討している点は評価できる。順調に計画が進捗しているため、アウトカム目標をさらに高め、「よりよい」型対話技術により、グローバル市場で対話インタフェースを獲得する計画を期待したい。
- 対話エンジンの OSS 公開を本年度3月に予定して一般の利用が可能となりフィードバックが得られる状況まで進捗している。また、ハッカソン、ワークショップを開催し、コミュニティ活動を積極的に行っている。
- 技術開発のみならず、ビジネス展開に向けた様々な取組みが計画されており、実証実験を含めた様々な分野への展開が期待できる。

(4) 予算計画

(5～1の5段階評価) : 評価3(評価点)

(総論)

実サービスの構築を前倒して実施する計画であり、研究の進捗に必要な経費が適切に計上されている。

(コメント)

- 実サービスの構築を前倒して実施する計画である。
- 物品費、人件費、謝金、旅費など研究の進捗に必要な経費が適切に計上されている。
- 妥当な計画と考えられる。

(5) 実施体制

(5～1の5段階評価) : 評価4(評価点)

(総論)

成果の一部を利用した API サービスの先行的な利用促進や、今後の発展が期待できるスマートシティ、MaaS、医療での利用を検討しているなど、現体制が適切に機能している。また、今後、特に重要な役割を担うと考えられるビジネスプロデューサーなど適切な人材が配置されている。

(コメント)

- 成果の一部を利用した API サービスを先行的に利用してもらうように、複数の大学・企業に提供している。
- チャットボット領域だけでなく、今後の発展が期待できるスマートシティ、MaaS、医療での利用を検討している。
- 研究開発を順調に推進し、ビジネスプロデューサーと連携して今後の伸びが期待されるスマートシティ等への取り組みも具体的に計画するなど、現体制が適切に機能している。
- 今後、特に重要な役割を担うと考えられるビジネスプロデューサーなど適切な人材が配置されており、計画通り進捗するものと考えられる。
- 各実施者及びビジネスプロデューサーの役割については、十分に適切と考えられる。